

高退協ニュース

高知高退協
事務局
1999-5-18
No.98

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内二丁目一〇番
TEL 088-811-6822
FAX 088-811-6823
振替口座 徳島 511-1189

会長に岡崎清恵氏

新役員に国松勝、西込曠(私学)氏
高退協の定期総会

高退協の定期総会

一斉地方選が終るのを待って4月29日、高知城ホールで開かれた総会には36名が参加しました。司会に竹島寛之さんを出、この一年間に亡くなった6名のご冥福を祈って黙禱、私学の西込夫妻をふくむ新加入者9名が紹介されたあと、今期で勇退する坪井会長が挨拶し、全国に先がけて結成した高知高退協の先進的な歩みを振り返りました。

針が原案通り承認されました。最後に、新会長に岡崎清恵さんを、退任する坪井幹之、小島真子さんのあとに国松勝、西込曠さんを選出、国松勝、西込曠さんを選出、役員選挙委員の小川和俊さん、顧問の渋谷巖さんの退任を承認して、新年度の高退協諸役員を次のように決定しました。

- 会長 岡崎清恵
- 副会長 中岡鉄夫
- 事務局 南千加良
- 常任委員 坂本敬子、林 志子、山脇正照、和田 明、古味忠男、中川正路

会長就任にあたって

岡崎清恵

審議では、医療の後退をもたらず県立中央病院と高知市民病院の合併に反対する運動、ドック検診の補助を実現する活動、介護保険の充実と国の補助金を増額させる運動の重要性が強調されました。また退職者の組織的力を地域活動に生かす大切さや政治革新への積極的な取り組みが報告され、事務局の提案を補強し、経過報告と今年度の運動方針

定年退職してすぐ役員になり、八年経過しましたから、引退をと申し出ていました。二年先輩の坪井先生が諸種の事情でどうしても引退したいと強く主張され、私にお八子が回ってききました。横浜公民館長、交通指導員、政党関係など多忙な日々を余儀なくされていきます。幸い健康に恵まれて、まだ元気が残っていますので、役員をはじめ会員の皆様のご支援、ご協力をえて、何とか役責を果たしたいと決意しています。どうぞよろしく。

にぎやかに

「退職者を励まし
新加入者を祝う会」

定期総会につづいて前記の催しが、4階ホールに百名近くが参加し、盛大に行われしました。

今年度の退職者は、勤評闘争直後のすさんだ職場で、教育労働者としての生きがい求めて高教組に加入した人びとが多く、こもごもに語る言葉は、かつての日々を想起させました。今回から、その貴重な教訓を引き継いでもらおうと、新加入者を祝う会がつづいて行われ、6名の若わかし組員が紹介されました。高退協からは48名が参加して退職者の労苦をねぎら

い、友との再会を喜び、遅くまで旧交を暖めていました。また私学の退職者で高退協に加入した西込夫妻が紹介されました。退職者のうち当日までに9名が高退協に加入し、新年度は357名の過去最高の会員でスタートすることになりました。

- 西田令子、塩田能子
- 国松 勝、西込 曠
- 監査委員 湯原 勲、横川哲郎
- 顧問 浜田昌俊、坪井幹之

満期退任

坪井 幹之
退職後、高退協事務局に入って早くも十年が立ちました。当初から心に決めていた「満期」到来です。

ふりかえってみますと、たしいたこともできなかった十年でしたが、なんとか大過なく役目をこなすことができました。この機会に会員のみなさんに深く感謝いたします。これからは、人生の第四期と位置付けて、今まで続けてきた山歩き、霊場巡り、読書、陶芸など「趣味三昧」に生き甲斐を求めようと思っております。これからもお付き合いのほどよろしくお願ひします。

最後に、みなさんのますますのご健勝を心からお祈りして退任の挨拶に代えます。

役員退任挨拶

小島真子

一年間でしたが事務局に参加させていたが、とて思っていました。失敗ばかりでちっともお役にたてなかつたけれど、事務局での話し合いには、いろいろ学びの機会がありました。山の方とふれ合った事は、楽しい思い出になりました。長年の夢を実現させるため、勝手ですが退任して外国で日本語や日本の社会・文化を教えに行ってきた。イギリスに行きたかったけれど、春からは無理らしいので、まずニュージーランドに行きます。9月からイギリスをねらいます。ニュージーランドは私の英語の先生であり友達でもあるジョアンナのお生まれの国だし、彼女の母さんとも知り合いなので、ほとんど不安は感じません。一年間本当にありがとうございました。

新役員挨拶

国松 勝

一九七一年に高教組執行部入りをして以来、28年間の組合役員の役割を終え、この3月に無事退職することができました。この間、職場の同僚をはじめ、多くの仲間の皆さんに支えられ、役割をなんとか果たすことができました。ここに改めて、みなさんに心からお礼を申し上げます。

このたび、高退協に加入させていただき事務局を担当することになりました。青年部の心境です。これからは、自分の時間を大切にしていきたくと思っております。どうかよろしくお願ひ致します。

新役員挨拶

西込 曠

追手前高校で私の教育実習が終った日に、勤評不提出校長処分の発表があった。母校高岡高校の校友会長をしていただ私は勤評闘争の真つた中になげこまれることになったのです。翌年四月宇佐分校に十九時間の時講として赴任したとき身分のことなど考える暇もなく高教組に加盟したのでした。清水高校で期講を一年、高知高校へ転出して、三十余年。長い放浪の旅の後にやっとなつかしい我が家にたどりついたような気がしているところなんです。

私の今の身分は日本棋院の普及指導員。地域や職場に支部を作つてこのすばらしい伝統文化をひろめ発展させてゆくことが私の仕事です。全国におよそ一二〇〇もある支部が高知県にはなぜか一つしかありませんでした。言うまでもなく組織率も、会員数もだんごの全国的最低位です。高校の職場対抗戦も最近衰退の一途をたどっています。こうした状況を克服してゆくとめには皆さんの理解と協力を得るより他にありません。請われるままに事務局入りしたのもそのためです。

「寒泉寺日記」抄 坪井 幹之

二月

「十二日」湯水で閉鎖していた市営プール、やっと再開。久しぶりの「老泳会」でストレスを解消。

「十六日」一時よりニュース放送の準備、続いて事務局会議。精力的に総会議案を審議。

「十七日」雨天で日延べになつていたつじが森に登山。参加者六名に肥満、短足のワン公が随伴。二時間で頂上へ。下山後、名滝「樽の滝」を探賞。登山口の食堂で名物の蟹ソーマンを食す。ツガニがだしとのこと。噂に違えず美味。

「二十日」読書会を開く。七名の参加にサポーターとして西高の柿内さんが列席。主題は教育問題。話し合いは本音を出し合った率直な意見交換に終始。荒唐克服の世論喚起が必要。これからの高退協の課題か。今回は国際紛争の焦点「民族問題」をテーマにすることにして散会。

「二十四日」高退協役員選挙

委員会開かる。小川、加藤、窪田、竹島の四委員参集。坪井より事務局会議での意見交換の模様を報告。今後の段取りを協議。散会后、慣例の慰労会をもつ。

「二十六日」「山の会」の年次総会を持つ。十七名の参加で運営委員の選出、スポーツ保険への加入問題等を話し合う。終了後、「あさくら屋」で懇親会。

四月

「二日」県選啓示。「老泳会」定例日で泳ぐ。桜花爛漫。

「六日」午前中に「山の会」の運営委員会。七名全員出席。二時間半をかけて年間計画を策定。一時から高退協総会の議案発送準備。四時頃から事務局会議。一日中の会議でいささかグロッキーさみ。

「十二日」県選開票終了。共産党の善戦で自民党公認過半数割れ。県政民主化への大きな一歩。

「十六日」「老泳会」に参加はやくも季節は新緑の候へ。

「二十三日」「老泳会」で泳ぐ。

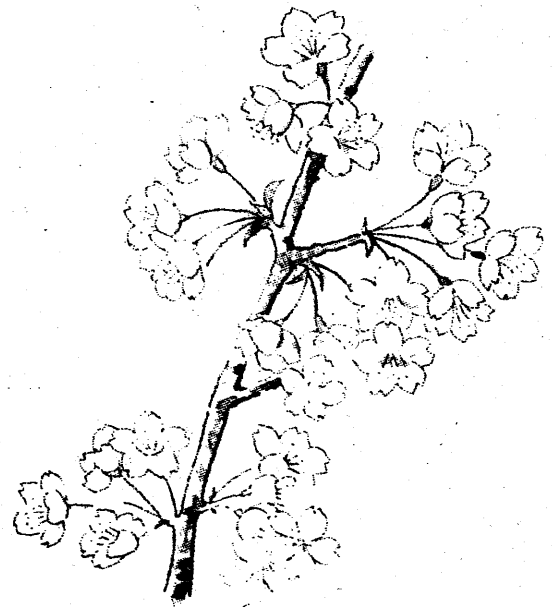
「二十七日」「山の会」四月例会。予土県境の大座礼山に登る。総勢十九名。大田尾越に駐車。二時間で山頂へ。途中のブナの大樹は素晴らしい。快晴の頂上から石鎚を望む。残念ながらアケボノツツジは蕾。エンレイソウ、コバイケイソウの群落あり、高山の気分を味合う。帰途、本山の帰全山に立ち寄ってシヤクナゲを鑑賞。(完)

【後記】 おわりにあたり「寒泉寺日記」の主旨について一言。それぞれの会の機関紙には「書記局日誌」とか「事務局月報」といった欄で執行機関の行動記録を報告しているが、官報的で面白くない。くだけた形で考えた末個人的な日記で報告させてもらうことにした。あわせてクラブ活動の様子も折り込んだ次第。長い間、駄文にお付き合い頂き感謝にたえません。では、淀長さんにならってサイナラ、サイナラ、サイナラ。

〈再録〉 慶弔内規

- (1) 死亡見舞 10,000円
- (2) 米寿の祝 10,000円
- (3) 入院見舞 3,000円 (入院期間が1カ月以上にわたる場合、本人または家族よりの申請に基づいて適用)
- (4) その他、事務局会議が必要と認めた場合 相当額
- (5) 運用の細目については、その都度事務局会議で検討の上執行する
- (6) 適用は1992年4月1日以降とする

〈お願い〉 該当する方がおいでしたら、事務局までお知らせ下さい。



俳句

3月27日(土)

土佐山田町 鏡野公園・工科大学

合田青幹

踏青や真正面に工科大

二三輪つけ万藪の花蘇枋

田所たねを

春風や数字ばかりの合格者

休講の貼紙懐し春の雨

吉本伸秋

木々芽吹く梢に煉瓦の時計塔

キャンパスの奥に水音や木の芽風

中内みち代

キャンパスへ花の雪洞種馬所跡

キャンパスの奥へ奥へと桜どき

小笠原さちを

芽柳のどつとこぼ雨の粒せる

学寮の聳え立つなり花の道

補聴器使物語

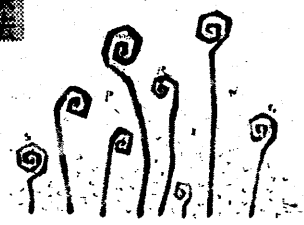
坪井 幹之

いつの頃からか耳が遠くなつた。数年前、近所の耳鼻科で診てもらったところ、老人性難聴で治療の方法はない、日常生活に差し支えがあれば補聴器をとの診断であった。

以後、月日が立つのともないますます聞こえなくなつてきた。会議でも人の話は半分聞き取れればいい方。テレビのドラマでは早口、高音の台詞がわからない。いよいよ補聴器のご厄介になるしかないと思つた。決心を決めたが、なかなか踏ん切りがつかない。やがて三月三日がきた。「シミの日」である。これが契機と再診に出掛けた。検査の結果は両耳とも難聴が進行しているとのことで、補聴器専門店の紹介状をもらった。

早速、高知駅前の店へ。妙齢の女性がにこやかに応接してくれた。まずは聞き取りの検査。小さい音量では「ヤオヤ」といった言葉が聞き取れなかった。次に補聴器の試験となる。説明の冒頭に補聴器は治療器具ではない、超小型のマイクであるとの託宣。それで保険がきかないのか。機種は耳穴型と耳掛型の二種でそれぞれ大型、小型、全自動と多種多様である。値段もウン万円からウン十万円までいく段にも分かれる。長時間かけて調整。

一週間の試用という事で借り出す。決めかねたが、結局、耳掛型の全自動の機種を購入した。いまのところ、テレビが聴きやすくなった程度である。「耳の遠くなった者は長生きをする」という言い伝えがある。せめてそうあって欲しい。



5・3憲法集會に280名 戦争法案廃案めざして

今年の5・3憲法集會には、高退協からの14名参加をはじめ、二百八十名が参加して、人権啓発センターで盛大に開催されました。主催者挨拶の後、山原代議士が祝辞を述べ直ちに国際政治学者の畑田重夫氏が「世界に誇れる日本国憲法、世界に異例な日米核軍事一体化体制」と題する記念講演がありました。

畑田氏は、はじめにとして、21Cが近づいているが、戦後史論的にいっても、憲法論的にいっても、かつてない重要な情勢の局面にある今、「歴史に学び、歴史を創る」という視点に立つて、「戦争法案」の廃案と非核港湾化条例設定にむけて、一大決起しよう、と、とても分かり易く確信のもてる講演をされました。

旗は高く、旗竿は深く！夢は大きく、活動はち密に！地域、職場、学園における反核平和勢力の結集と、そのための学習の大切さを強調されました。

労働者、青年、学生、退職教員の代表の決意表明の後、集會アピールを採択し、川崎雅彦氏の閉會のあいさつで終了しました。

教え子を再び戦場に送るな！と不屈に闘ってきた高退協としても力の限り奮闘する時期到来の感を強くした集會でした。

△議員の消息

☆坂本正夫さん 歴史民族資料館(岡豊)の館長に就任。
△活躍を期待します。



近況

多忙に挑む！
三月 林 勳

〔七日〕第8回佐賀町マラソン、10・8名。一昨年は「本大会恒例の特別賞」オーストラリアのゴールドコーストマラソンへの参加に当選した大会である。

〔十四日〕第20回浦戸湾健康マラソン、14・7名。20回連続出場28人の中に、高退協山崎孝秋氏の名前燦然と輝く。ご健闘を称え益々のご健勝をお祈りする。

大相撲三月場所初日、二十八日まで。

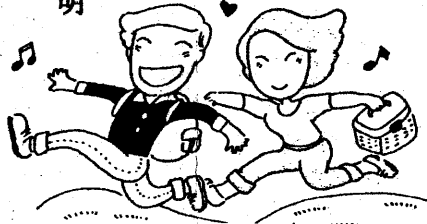
〔十七日、十九日〕ほかほか伊豆半島、箱根温泉、河口湖温泉、三日間の旅。

〔二十一日〕第50回全国高校相撲選手権大会(春野相撲場)



旅

和田 明



「旅のしおり」なら、会員のみなさんに読んで頂き、旅の参考にならなければ意味がないと思いつつも、そんな旅はしたことがないので、思うがままにつづりました。

今年二月、ある試みをしてみました。四国のゆけむりに載っている温泉をめぐってみたいと、近くの温泉から始めました。連続2日間、泊り温泉につかりました。

毎週南国市へ、短い高速を利用していきます。長距離運転してみようと思いつきました。山道を走るのには向かないことを知りませんでした。どのくるまも120km以上で、特に山陽道はダンガンが飛んでいる思いでした。次回は、地図とホテルガイドとテントをもつて、流浪の旅をと思つていきます。

〔二十四日・五日〕退職互助部の旅行―鳥取砂丘、湯村温泉、香住海岸。



〔二十六日〕山の会総会

〔二十七日〕「高知市民病院を現在地で存続を求める会」結成集會(これまでに数回の準備会)。

〔二十八日〕龍馬脱藩の道歩き、斗賀野から葉山へ、九名。

四月

〔三日、四日〕四万十川リバーサイドフルウオーク、三日31名、四日42名。

〔六日〕午前、山の会運営委員会。夜は町内会役員会。

〔八日〕従兄の告別式、74歳、南国市。

〔十一日〕県議選投票日。

〔二十一日、二十四日〕瀬戸内しまなみ海道国際スリ―デーウオーク、二十一日は因島で前泊、二十二日から三日間は散在している旅館から毎朝スタート地点へ集合して六時過ぎにスタート、一日40名ずつのウオーク、尾道から今治へ渡る。

〔二十五日〕三町村長、三市議、十四町村議投票日。

〔二十七日〕山の会、大座礼山、一五八八名。

〔二十八日〕町内会総会。

〔二十九日〕高退協一九九九年度定期総会。

五月

〔二日〕第70回メーデー

〔三日〕第14回大方シーサイドはだしマラソン、6名。

〔八日〕第4回市民オンブズマン四国交流会、香北町。

〔九日〕宿毛篠山(ささやま)マラソン(県の坂本ダム、どんぐり湖)と決定。その命名記念マラソン、10名。

大相撲五月場所初日、二十三日まで。

〔十三日〕県議会傍聴、午前十時、午後三時(元県幹部職員による巨額焦げ付き事件や病院職員退職金の不適正処理問題などの質疑)。

〔十六日〕山の会、カガマシ山、一三四三名。

〔二十日〕高知シニアスポーツ交流大会、マラソンの部5名(春野陸上競技場)。

老声草

四年毎の一斉地方選、本当にご苦労さまでした。「自共対決」が叫ばれる中で、平和と民主主義、住民本位の政治を求め私たちに大きな躍進できたことを大いに喜び合いたいと思えます。

私の場合、日本共産党港南後援会長として、米田稔、下元博司(教え子)の両氏が、当選できて、頑張り甲斐がありました。喜色満面です。

ところで、戦後半世紀、私達の必死の努力で「平和憲法」を守り抜いてきました。だが今、「戦争をする国」から「戦争をする国」になろうとしています。新ガイドライン関連法案は、何としても廃案にしなければなりません。アメリカの始める戦争の犠牲者にされはなりません。「われら」とわれらの子孫のために、政府の行為によって戦争の惨禍の起こることのないようにすることを決意することを宣言し「憲法前文に詠われていますように、主権者の責任として立ち上がりましょう。

戦後最悪の失業率、長びく不況、リストラ労働法制改悪、年金改悪、教職員の勤勉手当への成績率の導入、来年四月からは一人月額四、五千円負担の「保険料」とられ介護なしの介護保険制度の実施、枚挙にいとまなしの悪い政治！怒り天を衝くの感です。

ひとり一人の力は小さく弱くても、団結すれば大きく、強くなることは組合運動で体験済みです。高退協の旗を高く掲げたたかい進みましょう。

矛盾の激化は新たな発展のエネルギー。自民党政治のゆきづまりは明白です。私達庶民の力でこの日本を建て直さなくてはなりません。21Cを私達の世紀にするため、健康に留意しながら、存分に頑張りましょう。

(岡崎)



第二の勤評闘争

これからのたたかい

高教組委員長 井垣政利

初夏を思わせる毎日が続いています。みなさま方におかれましては、ご健勝のことと存じます。

さて、県教委は今年六月から、教職員の年二回の勤勉手当に「成績率」を導入し、支給率を変える差別賃金の実施を計画しています。

この制度は教育という共同の営みと教職員を賃金で分断するものであり、また、評価制度でありながら、明確な基準もないままに、学

校長にその学校毎に、すべての職種の教職員の中から一％の「優秀な教職員」を選ばせる、評価の内容や理由を教職員には一切知ら

ず、個人の実践の見直しと実践力の向上にはつながらない制度です。また、県



生活と平和を守る

第70回メーデー

5月1日、高知市の中央集会は、緑鮮やかな丸ノ内緑地に緑地に、約千五百人が集い行われました。国松実行代表委員は、不況を克服し、暮らしと平和を守ろうと呼びかけ、山

(投票率七五%)、この結果に対して教育長は三月議会で「制度の趣旨が徹底されていない」としながらも、その後も何の手立てもしていません。

この制度を全国で導入しているのは勤評闘争後にすぐ導入された愛媛一県であり、現在の全国的な賃金抑制とリンクした導入の流れ

の中では高知県が最初ということになりません。アメリカでは既に破綻した制度を、

県教委は導入、五月二六日には各校校長から内申書を

集約し、六月三〇日に支給という日程で強行しようとしています。

私たちは、制度の本質を明らかにしつつ、教職員の勤勉手当への「成績率」導入を凍結し、県民論議を求め

ることを要求しています。先日は県退教、退婦教、高退協の代表の方とも懇談、

また、県民ビラ配布、県民論議をまきおこしていくことを目的とした共闘組織

の結成を準備しています。(結成総会は五月一九日一八時半から教育会館三階)

これからの様々な取り組みにご協力頂ければ幸いです。

相撲三知識三十二

林 勤

大相撲を支える人々(6)

親方(6)

○弟子の光は七光(3)

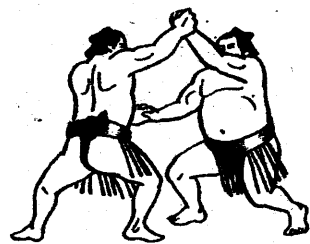
花籠親方(大ノ海)の現役時代は、失礼ながら、特別に書き立てることもない平凡な幕内力士であった。この大ノ海が昭和二十八年に興した花籠部屋が忽ちにして多くの弟子が集まって大部屋になり、親方が理事に次ぐ協会のNo.2と言われる事業部長にまでなったのは、一番弟子若ノ花(後の45代横綱若乃花)の出現によるところが極めて大きい。

花籠親方は「若ノ花が平幕の頃は、うちの若は見込みがある」と、いくらか触れ込んで訪れるマスコミは殆どいなかっただけで、若ノ花が関脇、大関になると、何も言わなくても部屋一杯の報道陣が押掛けた」と述べられている。又、「部屋が大き

テニスへの誘い

毎週月曜日と金曜日の9:30~11:30の2時間、春野運動公園のテニスコートでやっています。参加費300円、歩きつる方なら参加可、初心者から各コースまで多彩。問い合わせは窪田一郎(44-0333)まで

くなるにつれて、年寄としてのわたしの協会での地位も上がっていった」とも書いています。それを裏付ける年表の一端を掲げてみると「昭和30年10月若ノ花大関に昇進、翌31年1月に親方は平年寄から勝負検査役に就任。33



手四つ(手車)

年1月若乃花45代横綱に、同年1月役員改選で親方は理事に就任、巡業部長となる。以後、ずっと理事で、地方場所部長や相撲競技監察委員長などを歴任。48年5月弟子の輪島54代横綱に、親方は翌年1月に理事で事業部長に就任」などである。このように、花籠親方が弟子の光で協会の要職に就いたことは間違いない。だが花籠親方が言っている「①新興の部屋であったため、師匠、稽古台、若者頭、チャンコ番と一人何役もこなしてきた。午前三時頃には魚河岸へ買い出しに出かけた。②リヤカーへ積んでの質屋通いは毎度のことであつた(よく質草があつたことと思う)③(弟子の引退・独立となると、案外すつきりといかないものだが筆者註)花籠親方と二子山親方(若乃花)くらい仲のよい師弟はないとよく言われる。今でもあの頃の苦労を思い出して酒を飲み語り明かす。わたしたちの分家からいすんなりいったものはないと確信している。④などからわかるように、単に弟子の七光だけだけでなく、親方が器量人であつたことは申し添えておかなければならない。二人の横綱を育てた親方は昭和年代に六人いるが、平幕力士は花籠親方以外にも多くの力士を育てている。

「弟子の光は七光の筆頭格、弟子養成の名伯楽」として名を成した花籠親方。中島久光氏は、昭和五十六年九月二十日没、享年六十五歳。

寄稿のお願い

退職後は音信も途絶えがちです。退後には高退協の「会員の積極的な寄稿をお願いします。近況を伝える皆さんの積極的な寄稿をお願いします。

- 例えは (わたしの健康法) (旅の体験記) (近況やご意見、会員の消息) (老眼鏡) 読書、映画などの感想 (俳句、短歌、川柳、詩) (高退協へのご意見、ご要望)
- ◇紙面の都合で若干調整させていただきます。あらかじめご了承ください。
- ◇原稿送り先 〒780 高知市若草南町10-2 南 千加良 宛